

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度
与信相当額の算出に用いる方式	－ 方式	カレントエクスポージャー方式
グロス再構築コストの合計額	－	3
グロス再構築コストの額の合計額及びグロスのアドオン合計額から担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額を差し引いた額	－	－

(単位：百万円)

区 分	担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額		担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	
	平成25年度	平成26年度	平成25年度	平成26年度
①派生商品取引合計	－	18	－	18
(i) 外国為替関連取引	－	18	－	18
(ii) 金利関連取引	－	－	－	－
(iii) 金関連取引	－	－	－	－
(iv) 株式関連取引	－	0	－	0
(v) 貴金属(金を除く) 関連取引	－	－	－	－
(vi) その他のコモディティ関連取引	－	－	－	－
(vii) クレジット・デリバティブ	－	－	－	－
②長期決済関連	－	－	－	－
合計	－	18	－	18

(注) プロス再構築コストの額は、0を下回らないものに限っています。

6. 出資等エクスポージャーに関する事項

(1) 出資等エクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価等

(単位：百万円)

区 分	平成25年度		平成26年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上場株式等	361	361	337	337
非上場株式等	667	667	670	670
合 計	1,029	1,029	1,008	1,008

(注) 1. 上場株式等には、株式関連投資信託、信金中央金庫優先出資証券を含みます。
2. 非上場株式等には、信金中央金庫の出資金等を含みます。

(3) 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益額

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度
評価損益	△ 17	19

(2) 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度
売却益	71	22
売却損	0	0
償 却	－	－

(注) 損益計算書における損益の額を記載しております。

(4) 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益額

(単位：百万円)

	平成25年度	平成26年度
評価損益	－	－

7. 証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

8. 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

区 分	運用勘定		区 分	調達勘定	
	金利リスク量			金利リスク量	
	平成25年度	平成26年度		平成25年度	平成26年度
貸出金	230	259	定期性預金	△ 20	△ 20
有価証券等	152	125	要求払預金	△ 15	△ 16
預け金	13	12	その他	－	－
その他	0	0	調達勘定合計	△ 35	△ 36
運用勘定合計	397	397			
銀行勘定の金利リスク	361	361			

- (注) 1. 銀行勘定における金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの(例えば、貸出金、有価証券、預金等)が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。リスク量の測定において当金庫では、金利ショックを「パーセンタイル値」として銀行勘定の金利リスクを算定しております。
2. 要求払預金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、預金者の要求によって随時払い出される要求払預金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する預金をコア預金と定義し、当金庫では、普通預金等の額の50%相当額を2.5年の残存期間にてリスク量を算定しております。
3. 銀行勘定の金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定しております。

※パーセンタイルとは、対象とするデータを小さい順に並べ替え、指定された個数番目にある値を代表値とするものです。当金庫は、保有期間1年、5年間の観測期間で計測される金利変動データの1パーセンタイル値(小さい方から1%目の値)と99パーセンタイル値(小さい方から99%目の値)を金利ショックとして金利リスク量を算定し、金利リスク量の大きい方を採用しております。